

「岩手ようごの会」 第17回実践交流会のご案内 & 第16回の報告



令和元年5月30日

岩手ようごの会 代表 堀籠ちづ子

新しい元号「令和」がスタートいたしました。皆様には定期健康診断の終盤を迎え、子どもの保健室対応と繁忙な日々をお過ごしのことと存じます。

本会では、第17回実践交流会を開催します。年度が替わったこの時期、皆様で実践交流したいテーマを設定しました。ご参加を心よりお待ちしております。

.....第17回 実践交流会のご案内.....

テーマ 「この時期だからこそ感じる、引継ぎや文書整理は・・・？」
職務に関する文書の整理と次年度の引継ぎに活かすヒントを探ってみませんか

- * 日 時：令和元年6月22日（土）10：00～12：30
- * 場 所：アイーナ6F 団体活動室 3
- * お申し込みは不要です。直接、会場にお越しください。

新年度は、養護教諭にとって沢山のことが一斉に始動する時期です。転任の際には、引継内容によって始動と展開に違いが生じます。そして、転任に限らず校内においては、関係者との引継ぎもスムーズな学校保健活動や支援を要する子どもの教育活動などにも必要となってきます。

今回は、転任を含めて養護教諭の職務の引継ぎや日常の文書整理の仕方、そして、転任に限らずスムーズな職務の遂行や協働のための引継ぎ・文書整理はどうあればよいのか、皆さんと交流したいと思います。

当日は、「私、これをこうやったらすごく良かった!」、「このような引継ぎで助かった!」など、気軽に情報交換を行いたいと思います。

また、実践をご紹介いただける方は資料等の提供をいただくと助かります。30部ご持参をお願いします。

第16回実践交流会の報告



第16回テーマ「日常の救急処置活動から、子どもの生きる力の成長について考えてみませんか」

日常の救急処置活動の中で展開される子どもとのやり取りには、養護教諭としての思いや教育的意義があるのではないかと。そこには、どのような意図や意味があるのか、子どもの「生きる力」を育むための養護実践について交流を行いました。普段、子どもとやり取りする、「普通のことの意味」について年代を越えて交流が出来、心が暖かくなった実践交流会でした。そして、平成31年3月末でご退職されました本会会員である入駒一美先生から、養護教諭、副校長としての教員生活38年間の熱い振り返り、これからの養護教諭への期待を伺いました。

【実践紹介者とテーマ】

- ★盛岡市立津志田小学校 田村美穂子先生 「救急処置活動における養護教諭の言葉かけの意図を考える」
- ★岩手県立花巻北高等学校 高橋雅恵先生 「救急処置活動の中で子どもの思考力を高める場面を振り返って」

<実践交流とシェアリングの紹介・・・抜粋>.....
★養護教諭が保健室にいる意味について改めて考える機会であった。
★自分のことや身体の状態を伝えることができない子どももいる。自分を説明できる自己理解と思考力・表現力等、私達には一人ひとりに獲得してほしい目標がある。そこでの養護教諭の言葉掛けが重要と思う。
★将来からの逆算をして、今、この子どもに何をすることが良いのか考えた対応をしたい。
★社会で自立していくことを意識した対応は、どの校種にも共通している。在学期間を見据えて自立を目指したい。チームとしての指導も必要である。
★まとめ：「言うは易く行うは難し」対応が一方向的にならないよう、子どもが主体的な健康作りが出来るような対応を心掛けたい!!

「岩手ようごの会」について.....「ご紹介します！」

「岩手ようごの会」は、養護教諭に関する研修（子どもの心身の発育発達への支援及び養護教諭の資質や力量の形成）とその発展を目的として平成26年7月13日に発足しました。主な事業は、実践交流会や研修会、親睦会等を開催し、養護教諭・養護助教諭・退職養護教諭の交流・親睦を図る内容となっています。本会の詳細は、養護教諭部会様ホームページに掲載していただいております。 <http://www2.iwate-ed.jp/yougo/>